

トレボン® EW

■種類名：エトフェンプロックス乳剤
 ■有効成分：エトフェンプロックス ----- 10.0%
 ■PRTR法指定物質：エトフェンプロックス [第1種] ----- 10.0%

■登録番号：第18270号(三井化学アグロ登録)
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1993.01.22
 ■性状：類白色粘稠乳濁液体
 ■有効年限：3年
 ■包装：500ml×20本

【特長】

- 水稻、野菜から庭木まで幅広い作物に適用があり、広範囲の害虫に効果がある殺虫剤。
- 水ベースの製剤で散布時の臭いが少ない。
- 速効的なノックダウン効果と効果持続性を備えている。

【適用内容】(2021年3月10日現在)

作物名	適用場所	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用 液量 (ℓ) /10a)	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	イトフェン® ロックスを含む 農薬の総 使用回数		
稲	—	ウンカ類、ツマグロヨコバイ イナゴ類、イネドロオイムシ カメムシ類、イネミズゾウムシ コブノメイガ	1000	60~ 150	収穫14日 前まで	3回 以内	散布	3回以内		
		ウンカ類、ツマグロヨコバイ	300	25						
ばれいしょ		アブラムシ類			100~ 300	収穫7日 前まで			2回 以内	2回以内
やまのいも					60~ 150	収穫14日 前まで				
小麦						収穫7日 前まで			4回 以内	4回以内
とうもろこし		ツマジロクサヨトウ				収穫14日 前まで			2回 以内	2回以内
だいず		マメシンクイガ				収穫前日 まで			3回 以内	3回以内
えだまめ		ハスモンヨトウ、カメムシ類				収穫3日 前まで			4回 以内	4回以内
さやえんどう		ウラナミシジミ				収穫前日 まで			2回 以内	2回以内
実えんどう		シロイチモジヨトウ				収穫前日 まで			2回 以内	2回以内
きゅうり		コナジラミ類、アブラムシ類				収穫前日 まで			2回 以内	2回以内
すいか						収穫3日 前まで			3回 以内	3回以内
メロン		アブラムシ類				収穫前日 まで			2回 以内	2回以内
トマト		コナジラミ類				収穫前日 まで			2回 以内	2回以内
なす		コナジラミ類、アブラムシ類				収穫3日 前まで			3回 以内	3回以内
キャベツ		アブラムシ類				収穫7日 前まで			3回 以内	3回以内
はくさい		ヨトウムシ				収穫21日 前まで			2回 以内	2回以内
だいこん		アオムシ				収穫14日 前まで			3回 以内	3回以内
ねぎ		シロイチモジヨトウ				収穫14日 前まで			2回 以内	2回以内
レタス		アブラムシ類				根株養成 期 但し、 収穫45日 前まで			2回 以内	2回以内
てんさい	ヨトウムシ				—	6回 以内	6回以内			
エンサイ	イモコガ				発生初期	6回 以内	6回以内			
うど	アブラムシ類									
きく										
宿根かすみそう	シロイチモジヨトウ									
樹木類 (つつじ類、いぬ まきを除く)	ケムシ類	2000	100~ 700							

作物名	適用場所	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用 液量 (ℓ /10a)	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	イトフェン [®] ロ ックスを含む 農薬の総 使用回数
つつじ類	—	ケムシ類	2000	100～ 700	発生初期	6回 以内	散布	6回以内
いぬまき		ツツジゲンバイ	1000					
		モンアシフトゾウムシ	1000					
たであい		ケブカトラカミキリ、ケムシ類	2000					
水田作物、畑作物 (休耕田)	ヨシ、ササ、ススキ、 セイタカアワダチソウ 等の多年生 雑草が優占 している休 耕田	アブラムシ類	1000	100～ 300	—	3回 以内	散布	3回以内
		ハスモンヨトウ		60～ 150				

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 使用前によく振ってから使用すること。
- ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 散布の際は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
また、散布液を吸い込んだり浴びたりしないように注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養魚池等周辺での使用は避けること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こす恐れがあるので十分注意すること。
散布後は水管理に注意すること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。